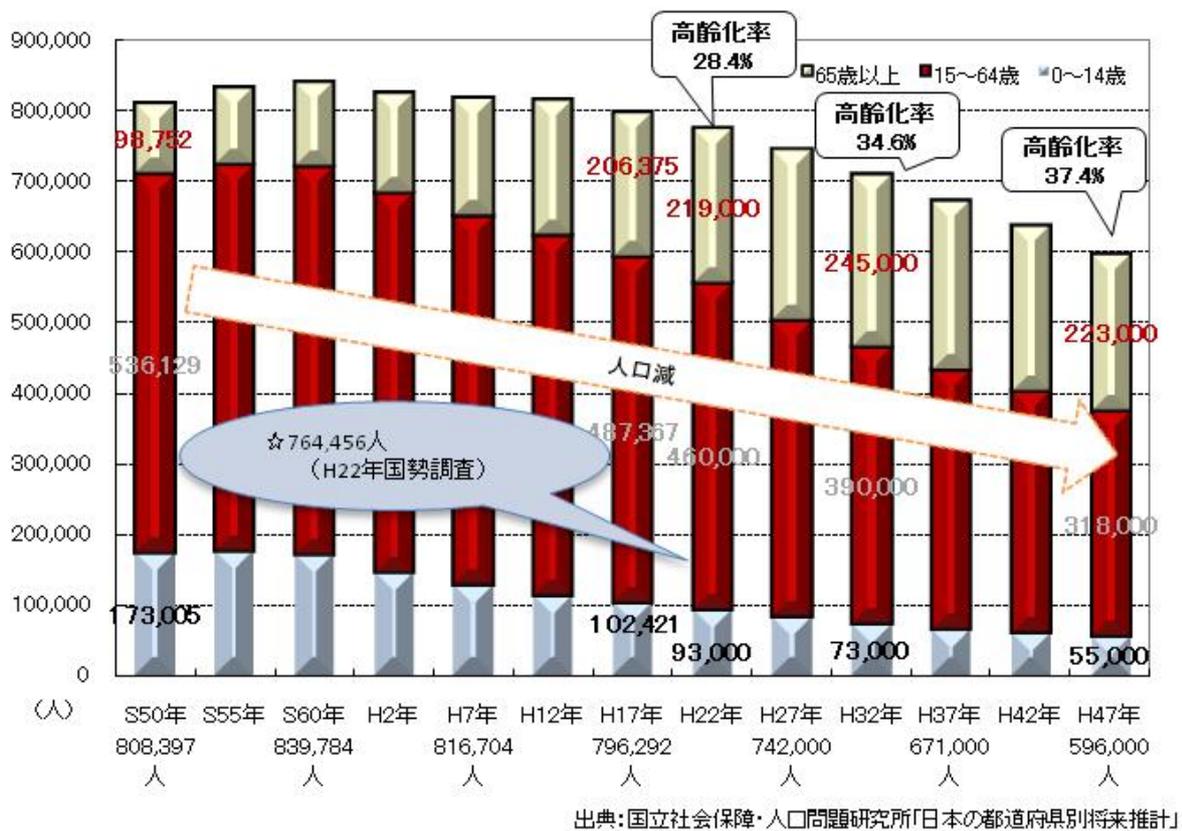


## Ⅱ 障害のある人の動向

### 1 高知県の人口の推移

本県の高齢者人口は、平成 32 年度にピークを迎え、その後は減少に転じると見込まれています。しかしながら、高齢化率は、総人口が減少することから平成 32 年度以降も上昇する見込みです。また、一方で少子化は年々進む見込みです。(図Ⅱ-1-1 参照)

■ 図Ⅱ-1-1 高知県の人口推移と将来推計人口



## 2 各種手帳の交付状況等

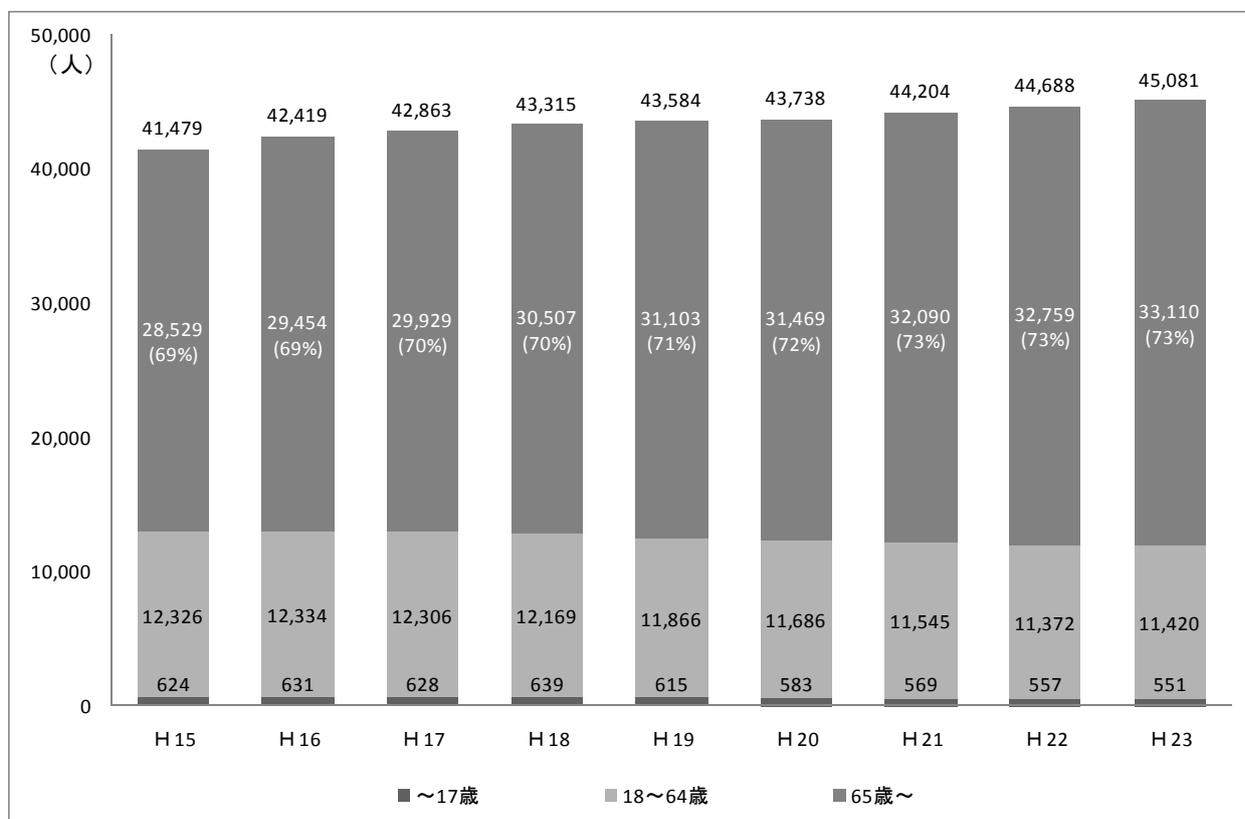
### (1) 身体障害者手帳

平成 23 年 3 月 31 日現在の身体障害者手帳の交付者数は 45,081 人で、県人口<sup>(※1)</sup>の約 5.9%を占めています。また、交付者数に占める 65 歳以上の人の割合は約 7 割を占め、増加傾向にあります。(図Ⅱ-2-1 参照)

また、交付者数のうちおおよそ半数が 1 級～2 級の重度の障害となっています。(図Ⅱ-2-2 参照)

障害部位別では、交付者数のうち肢体障害が 5 割を超えています。近年は心臓や腎臓など内部障害が増加傾向にあります。(図Ⅱ-2-3 参照)

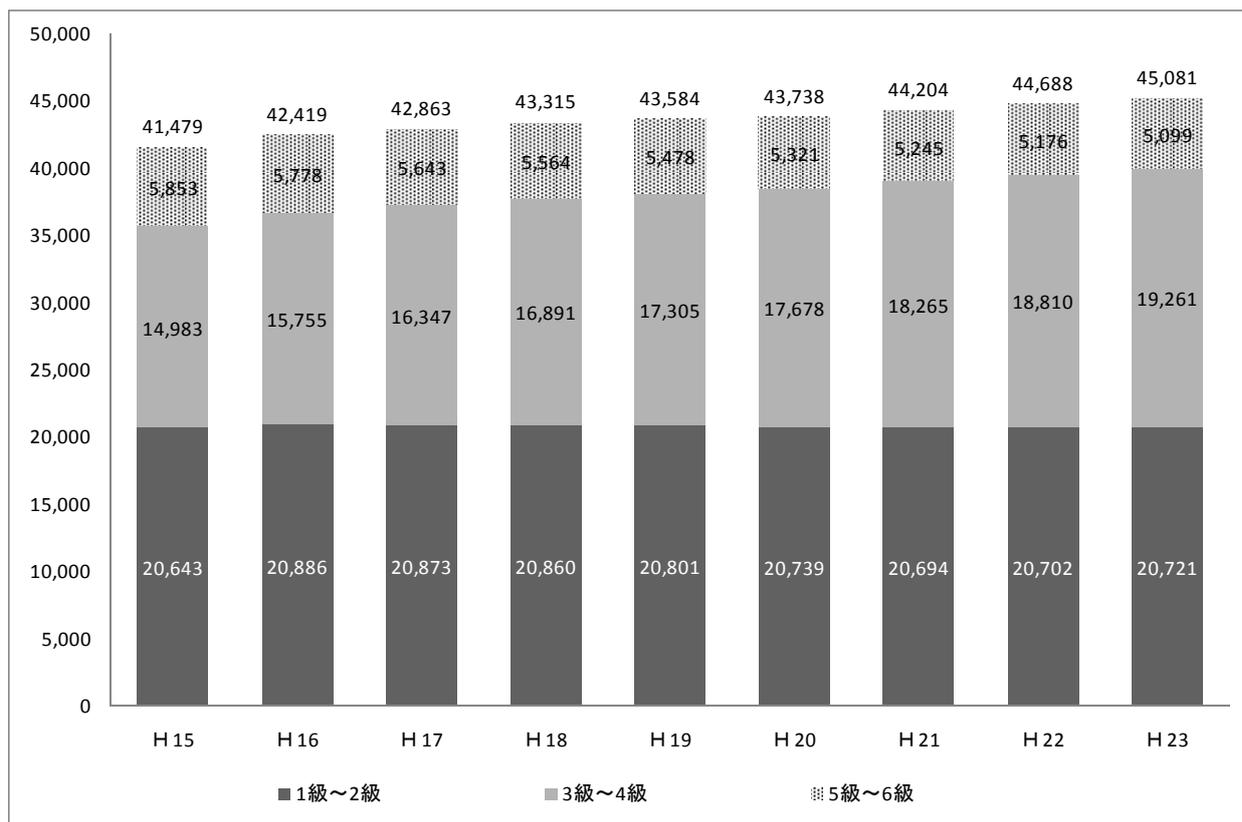
■ 図Ⅱ-2-1 年齢別交付者数の推移 (各年 3 月 31 日現在)



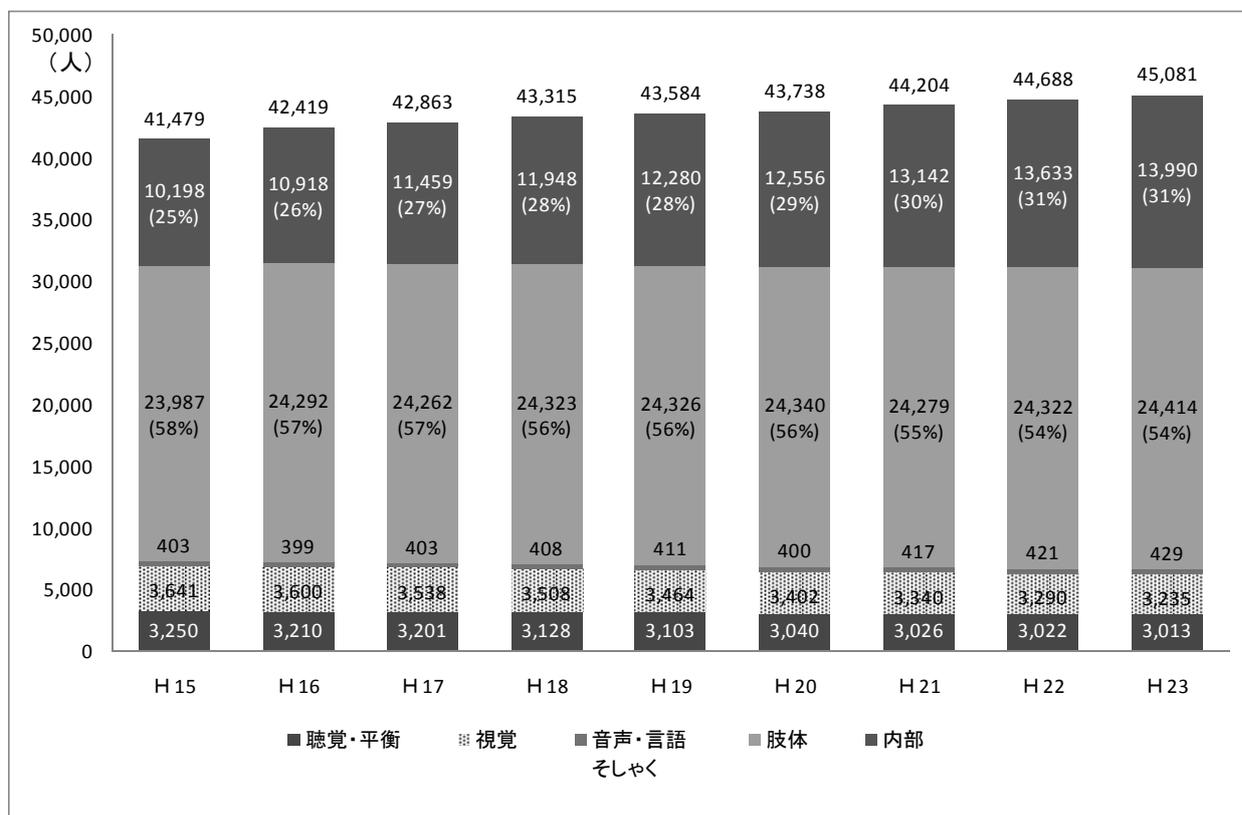
※1 県人口

平成 23 年 3 月 31 日現在 住民基本台帳登録数 766,426 人

■ 図Ⅱ－２－２ 級別交付者数の推移（各年３月３１日現在）



■ 図Ⅱ－２－３ 障害部位別交付者数の推移（各年３月３１日現在）



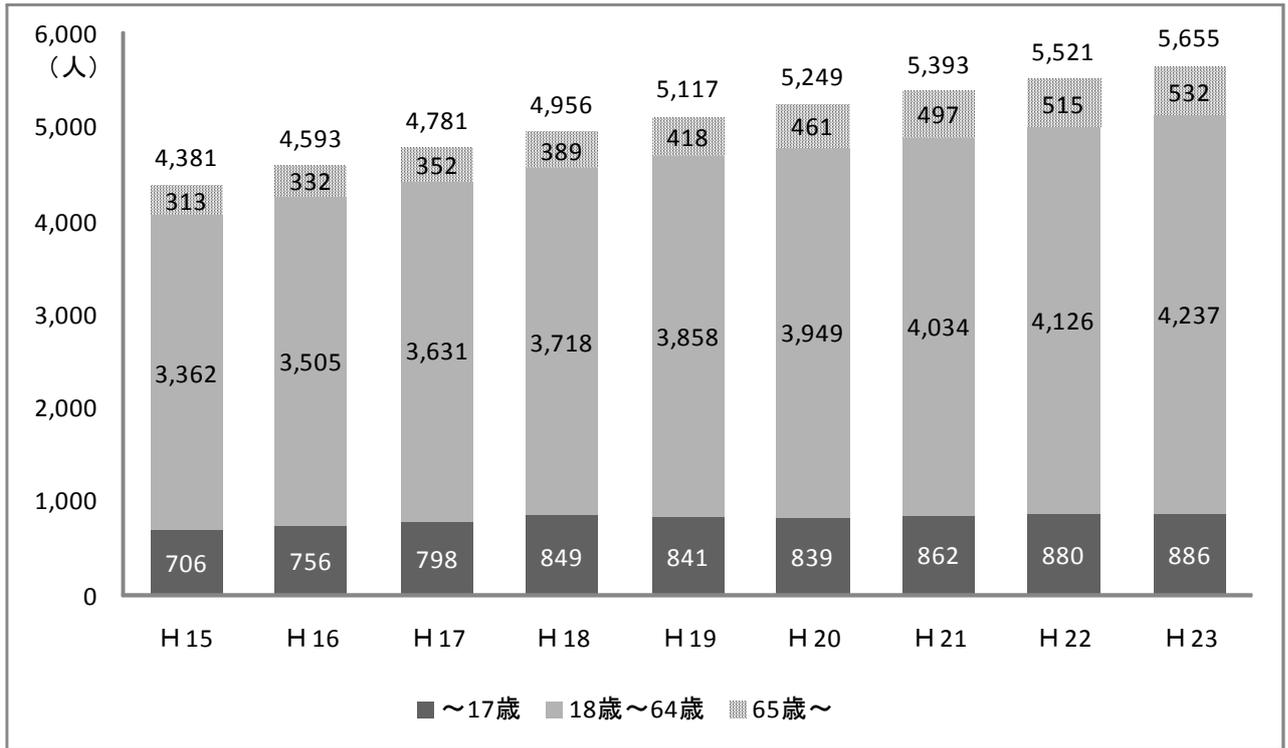
(2) 療育手帳

平成23年3月31日現在の療育手帳の交付者数は、5,655人で増加傾向にあります。年齢別で見ると、18歳以上が増加しています。(図Ⅱ-2-4参照)

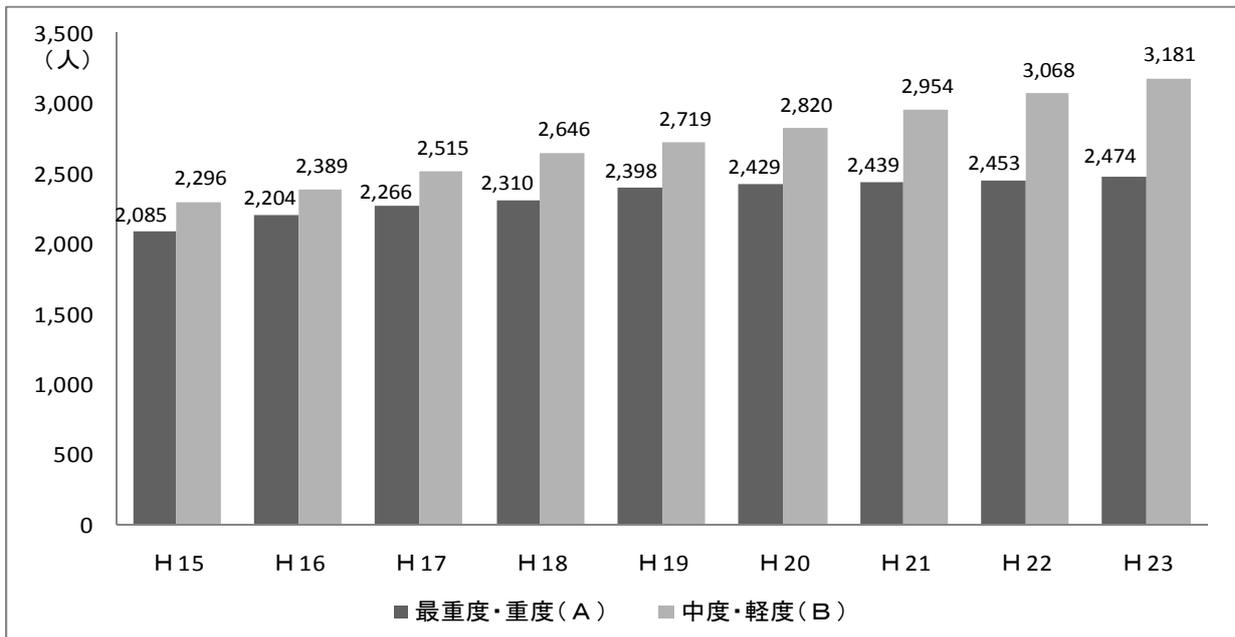
これは、JRなどの運賃割引制度が始まったことなどにより、療育手帳制度が浸透してきたため、今後も増加傾向が続くことが予想されます。

また、障害の程度別の交付者数では、中軽度(B)が重度(A)より多い状況となっています。(図Ⅱ-2-5参照)

■ 図Ⅱ-2-4 年齢別交付者数の推移 (各年3月31日現在)



■ 図Ⅱ-2-5 障害程度別交付者数の推移 (各年3月31日現在)

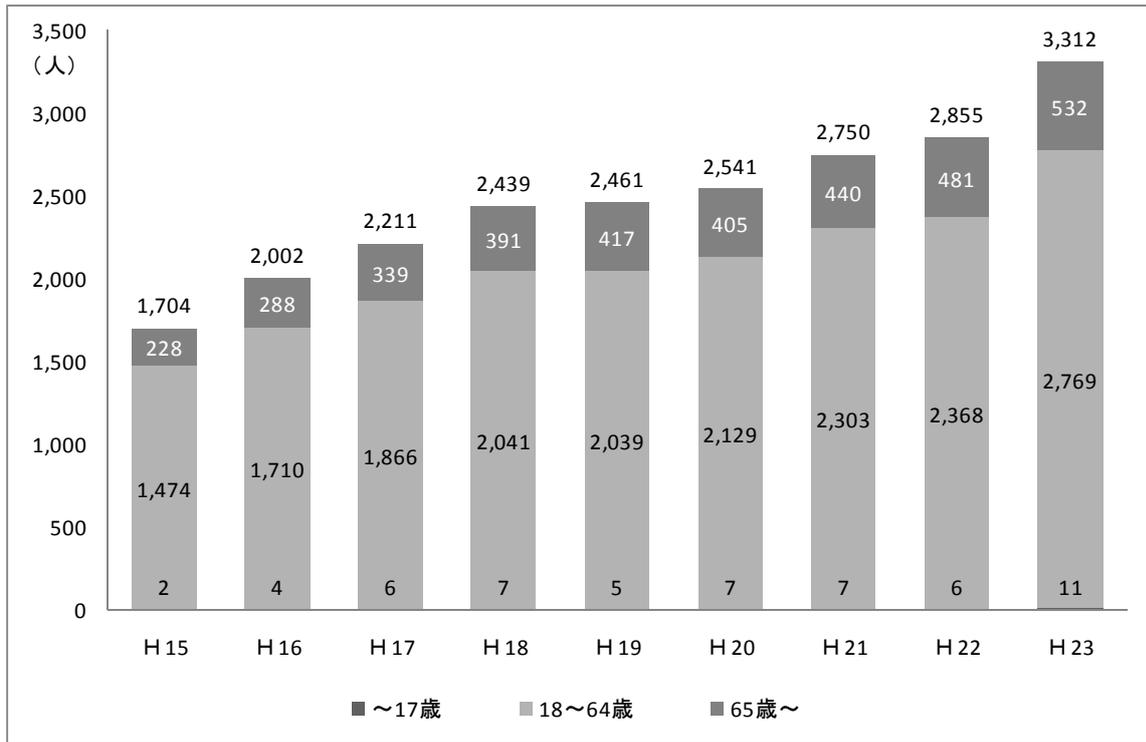


(3) 精神障害者保健福祉手帳

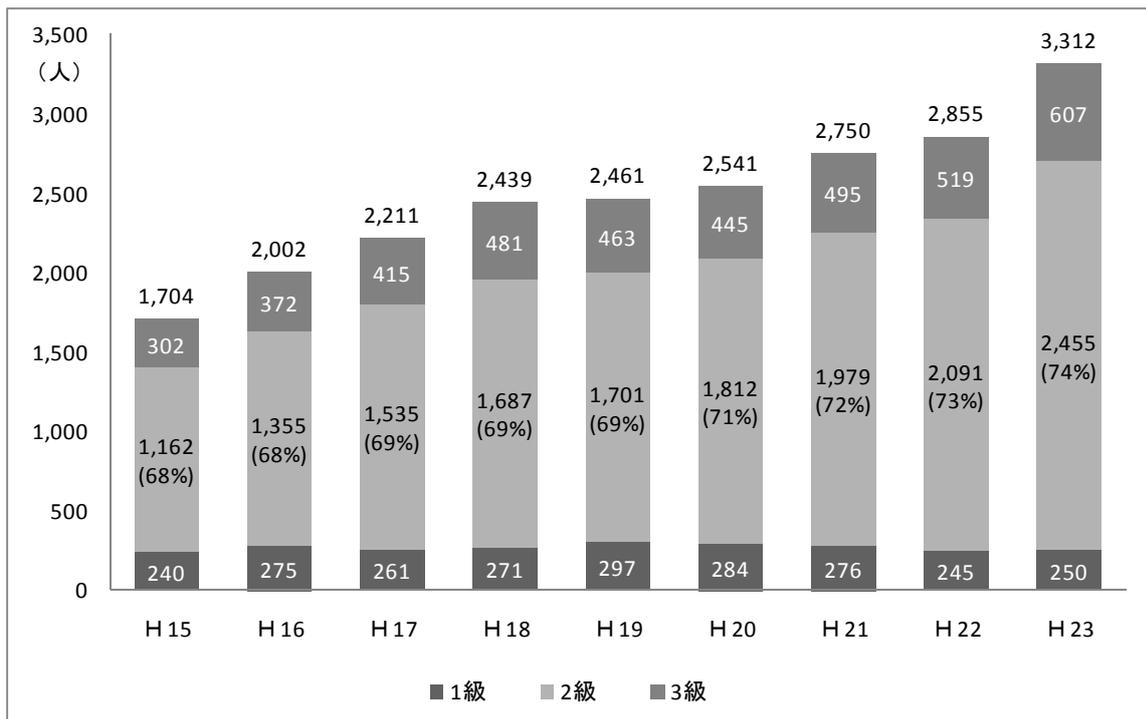
平成23年3月31日現在の精神障害者保健福祉手帳の交付者数は3,312人で、増加傾向にあります。精神障害者に対するサービスの提供体制の整備などにより、今後も増加が見込まれます。(図Ⅱ-2-6参照)

等級別では、2級の占める割合が7割以上となっています。(図Ⅱ-2-7参照)

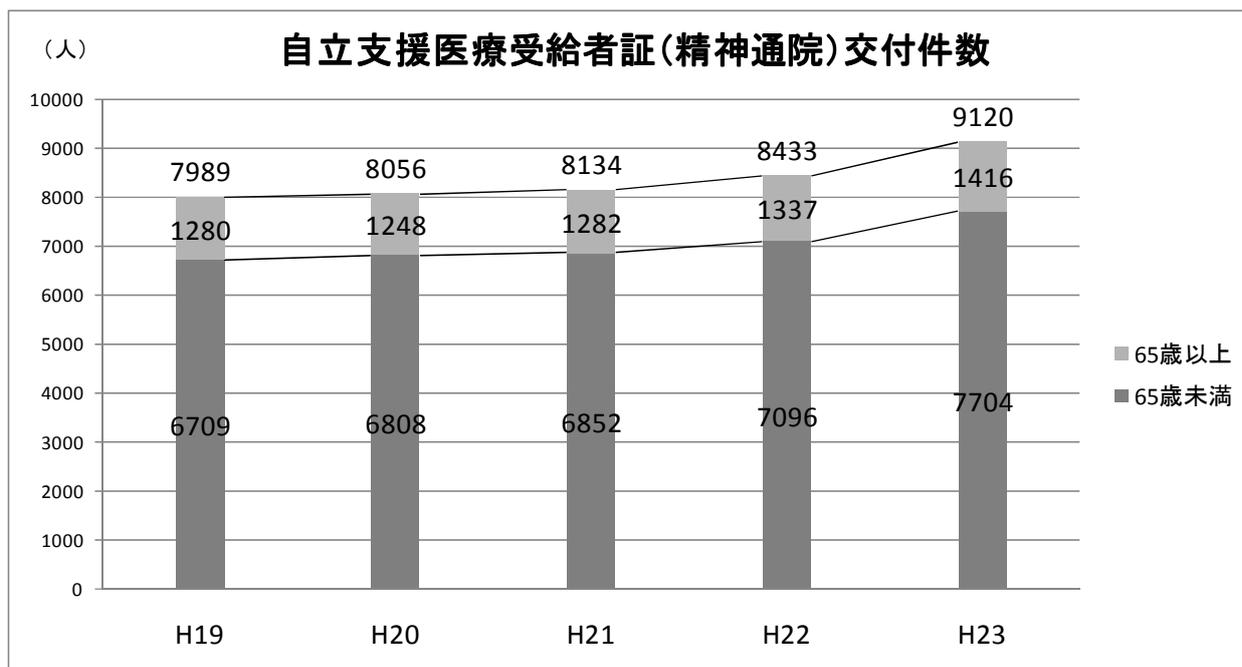
■ 図Ⅱ-2-6 年齢別交付者数の推移 (各年3月31日現在)



■ 図Ⅱ-2-7 級別交付者数の推移 (各年3月31日現在)



(参考) 自立支援医療受給者証(精神通院) 交付件数の推移 (各年3月31日現在)



(4) 障害保健福祉圏域別に見た障害者手帳の交付状況

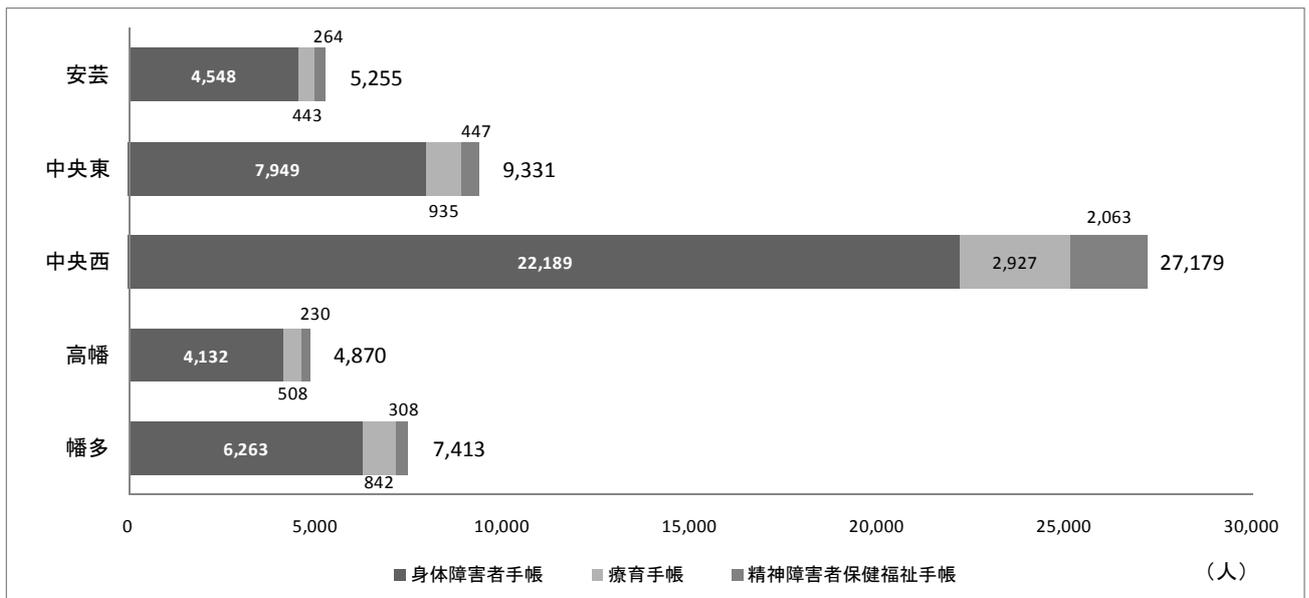
平成 23 年 3 月 31 日現在の本県における障害者手帳の延べ交付者数は 54,048 人で、県人口の約 7% を占めています。

なかでも、人口の多い中央西圏域における交付者数が、全体の約半数を占めています。(表Ⅱ-2-1 及び図Ⅱ-2-8 参照)

■ 表Ⅱ-2-1 障害保健福祉圏域別の各種手帳交付状況 (H23. 3. 31 現在)

	身体障害者手帳		療育手帳		精神障害者 保健福祉手帳		合計	
	交付数	%	交付者数	%	交付者数	%	交付者数	%
安 芸	4,548	10.1	443	7.8	264	8.0	5,255	9.7
中 央	30,138	66.8	3,862	68.3	2,510	75.8	36,510	67.6
中 央 東	7,949	17.6	935	16.5	447	13.5	9,331	17.3
中 央 西	22,189	49.2	2,927	51.8	2,063	62.3	27,179	50.3
うち高知市	15,988	35.5	2,251	39.8	1,766	53.3	20,005	37.0
高 幡	4,132	9.2	508	9.0	230	6.9	4,870	9.0
幡 多	6,263	13.9	842	14.9	308	9.3	7,413	13.7
合 計	45,081	100	5,655	100	3,312	100	54,048	100

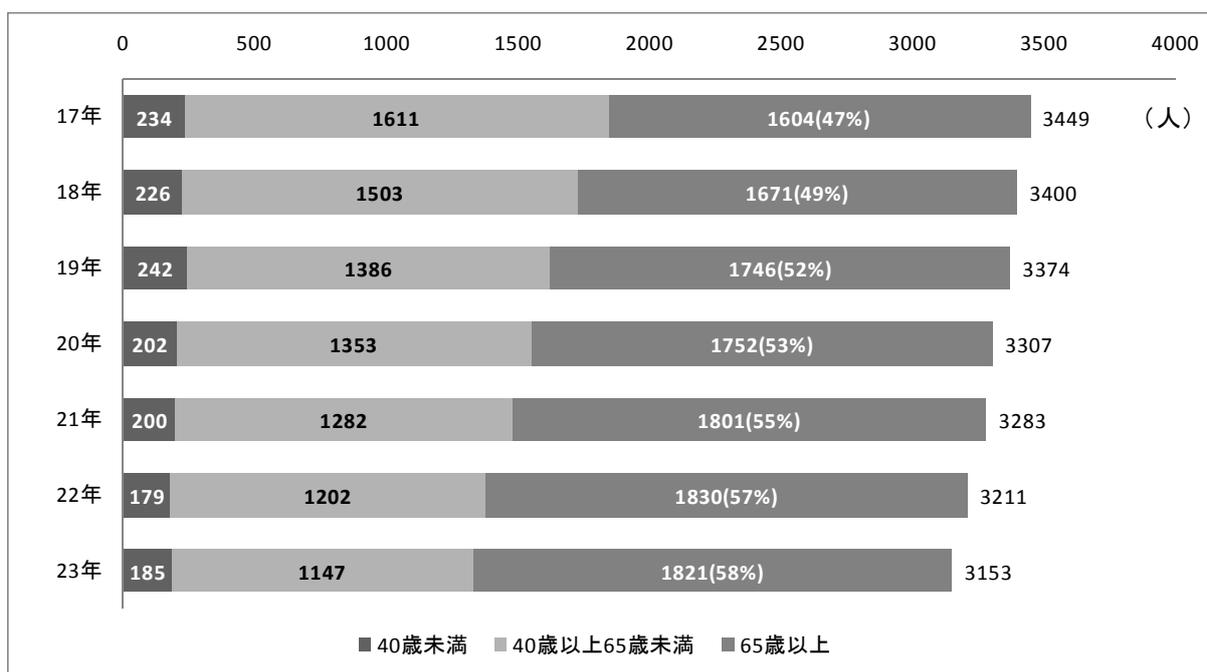
■ 図Ⅱ-2-8 障害保健福祉圏域別の各種手帳交付状況 (H23. 3. 31 現在)



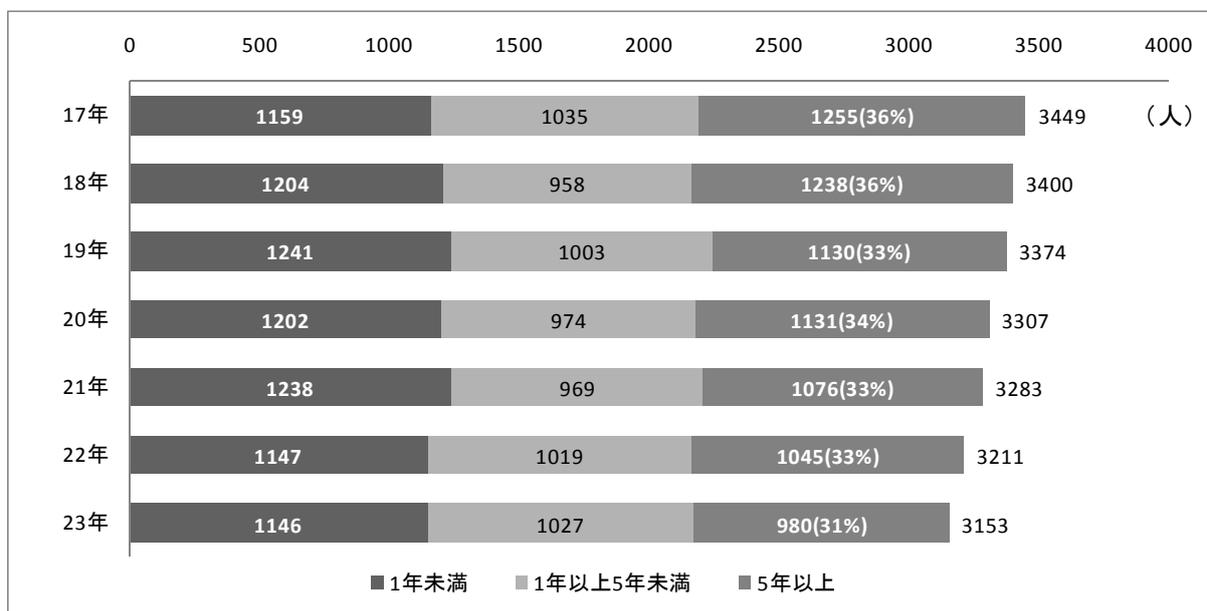
### 3 精神科病院入院患者数等

県内精神科病院の入院患者数は、平成23年6月30日現在で3,153人となっており、全体では減少傾向にありますが、65歳以上の患者の数が増加しています。(図Ⅱ-3-1参照) 一方、在院期間では、5年以上入院している方の割合が年々減少しています。(図Ⅱ-3-2参照)

■ 図Ⅱ-3-1 年齢別入院患者数の推移 (各年6月30日現在)



■ 図Ⅱ-3-2 在院期間別入院患者数の推移 (各年6月30日現在)



#### 4 特別支援学校（国・公立）・特別支援学級在籍児童生徒数等

特別支援学校に在籍する児童生徒の中では、知的障害の児童生徒が最も多く、全生徒数の約71%となっています。（表Ⅱ－4－1参照）また、卒業生の進路状況では、毎年、卒業生の約6～7割が福祉施設等を利用しています。（図Ⅱ－4－1）

特別支援学級に在籍する児童生徒の中では、知的障害及び自閉症・情緒障害の児童生徒が多くなっており、合わせて全生徒数の約85%となっています。（表Ⅱ－4－2）

■ 表Ⅱ－4－1 特別支援学校（国・公立）障害種別児童生徒数（H23.5.1現在）

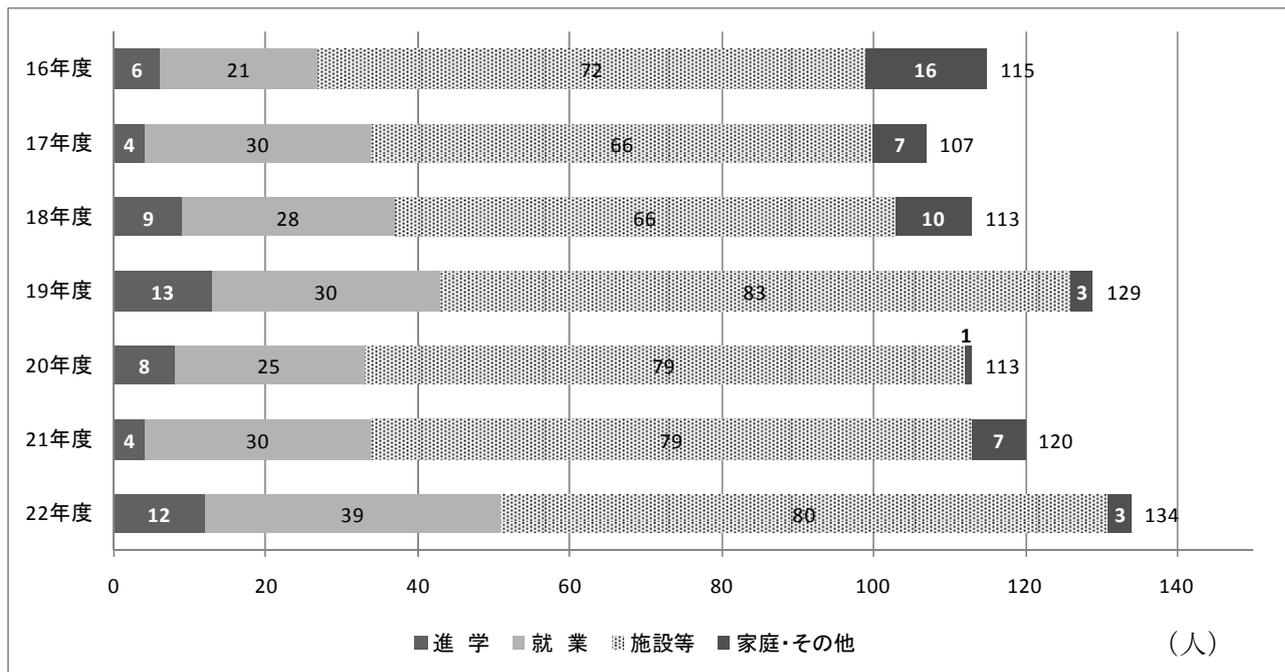
		視覚障害	聴覚障害	病弱	肢体不自由	知的障害	計
小学部		6	6	8	52	119	191
中学部		2	9	10	37	158	216
高等部	1年	2	7	7	19	107	142
	2年	4	3	10	19	89	125
	3年	4	4	8	14	106	136
	小計	10	14	25	52	302	403
合計		18	29	43	141	579	810

※高等部には専攻科及び理療科を含む。

■ 表Ⅱ－4－2 特別支援学級児童生徒数（H23.5.1現在）

	弱視	難聴	言語障害	病弱・ 身体虚弱	肢体不自由	知的障害	自閉症・ 情緒障害	計
小学校	9	17	2	27	53	322	304	734
中学校	5	7	3	11	20	137	121	304
合計	14	24	5	38	73	459	425	1,038

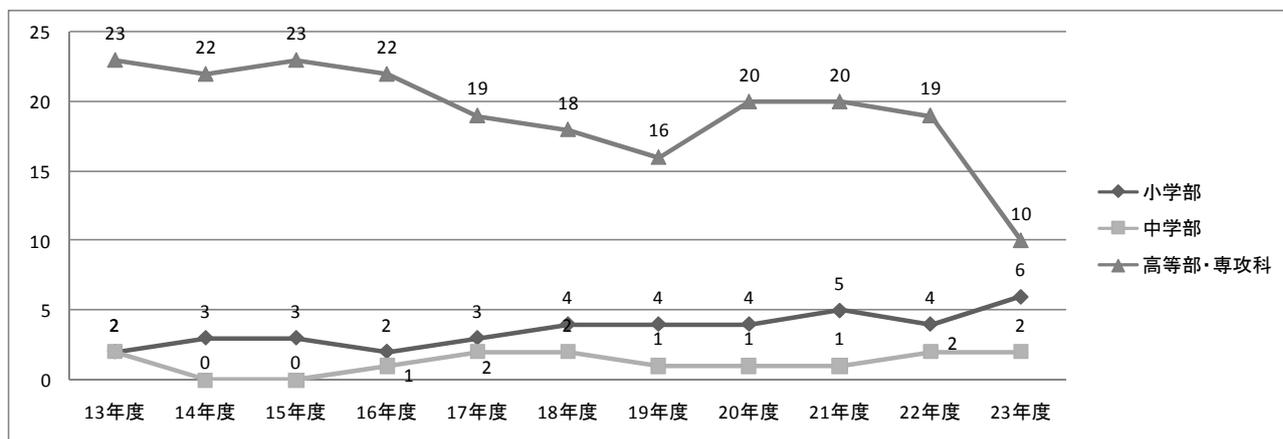
■ 図Ⅱ－４－１ 特別支援学校卒業生の進路状況



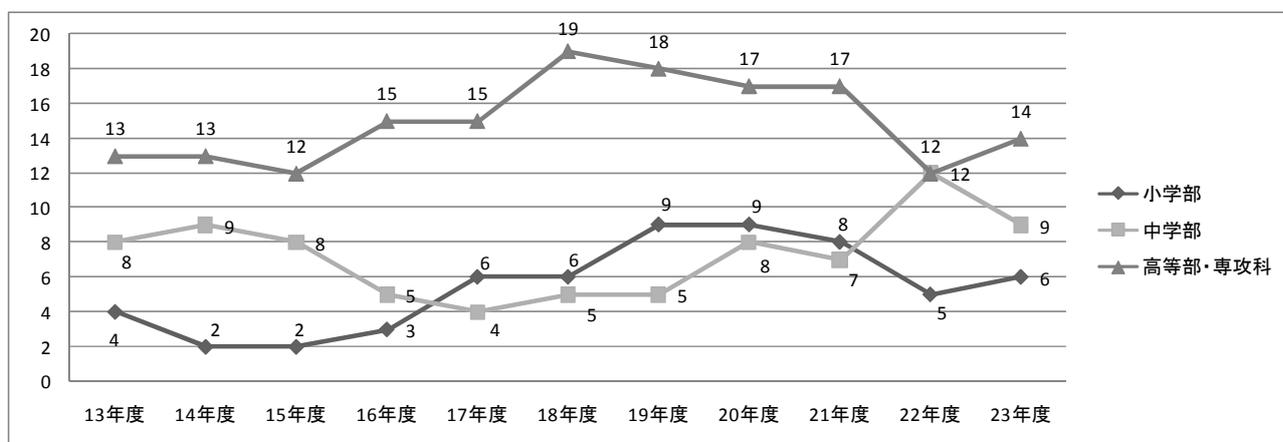
(参考) 特別支援学校（国・公立）及び特別支援学級障害種別児童生徒数の推移  
 ※各年度5月1日現在

(1) 特別支援学校

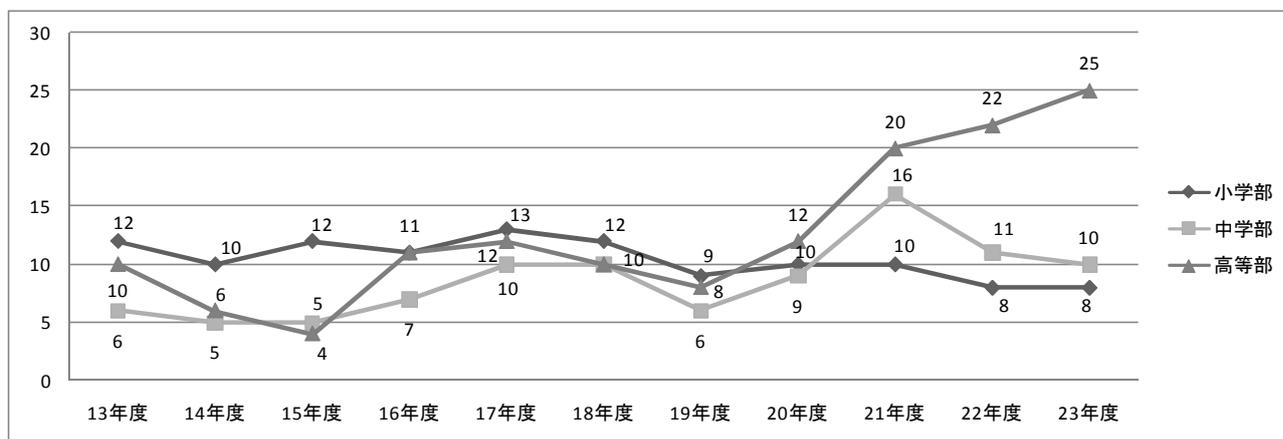
① 視覚障害



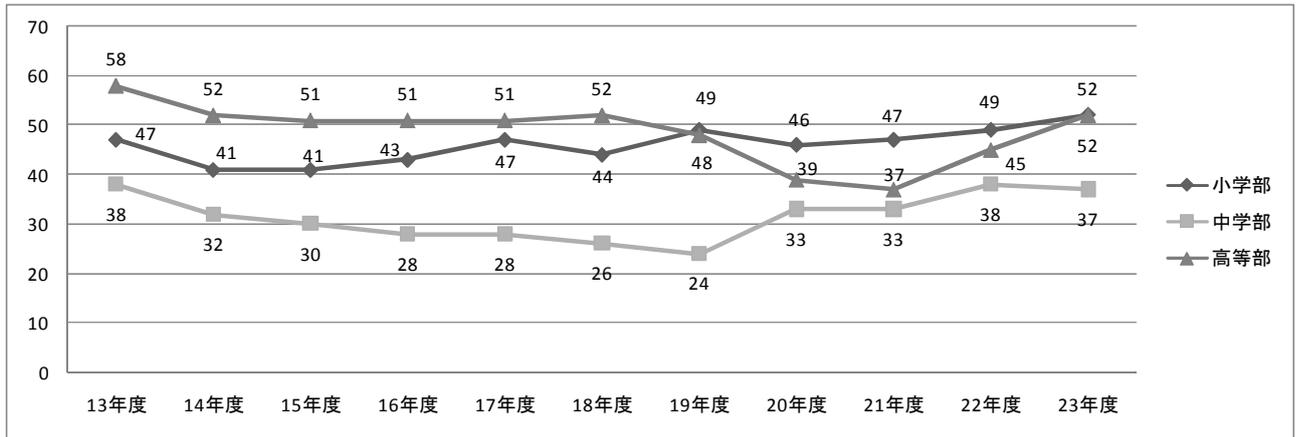
② 聴覚障害



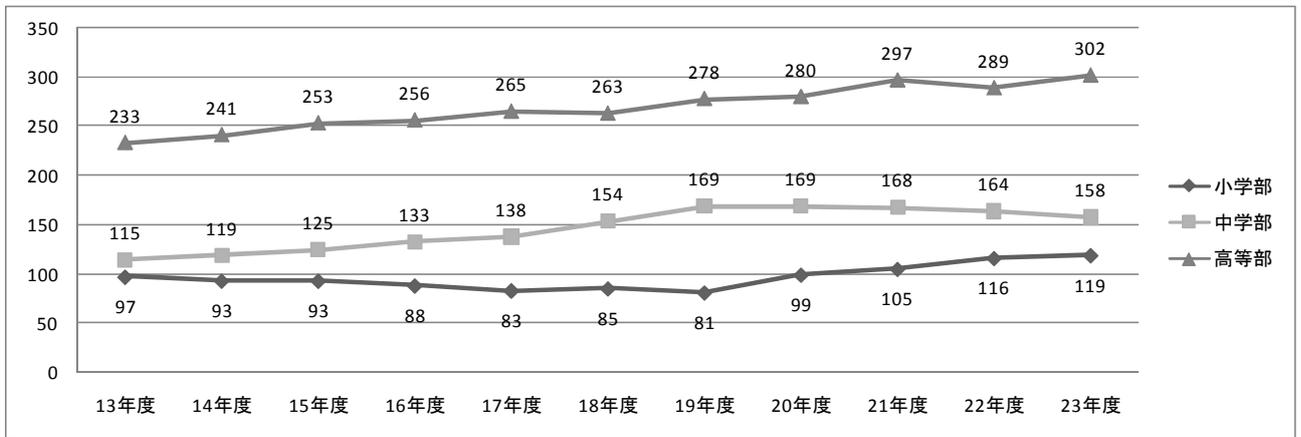
③ 病弱



④ 肢体不自由

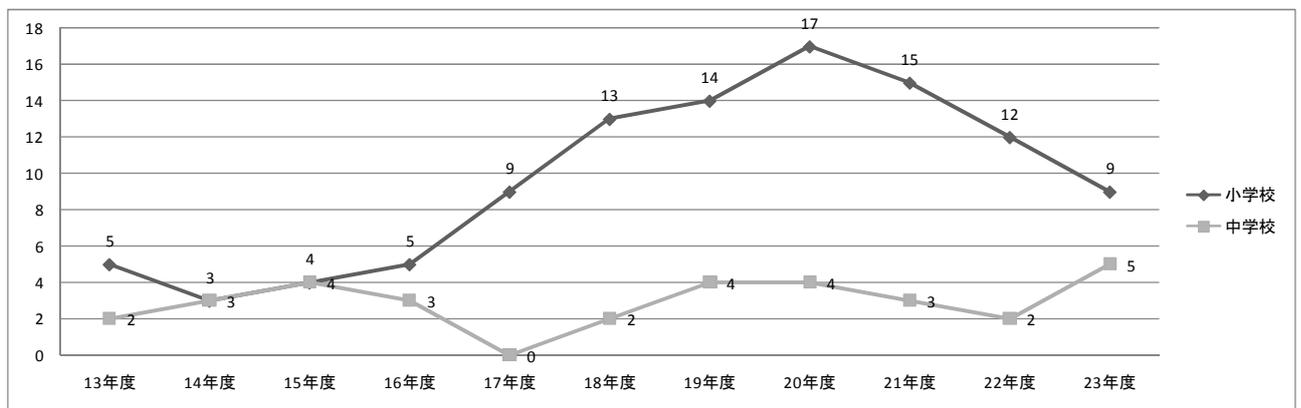


⑤ 知的障害

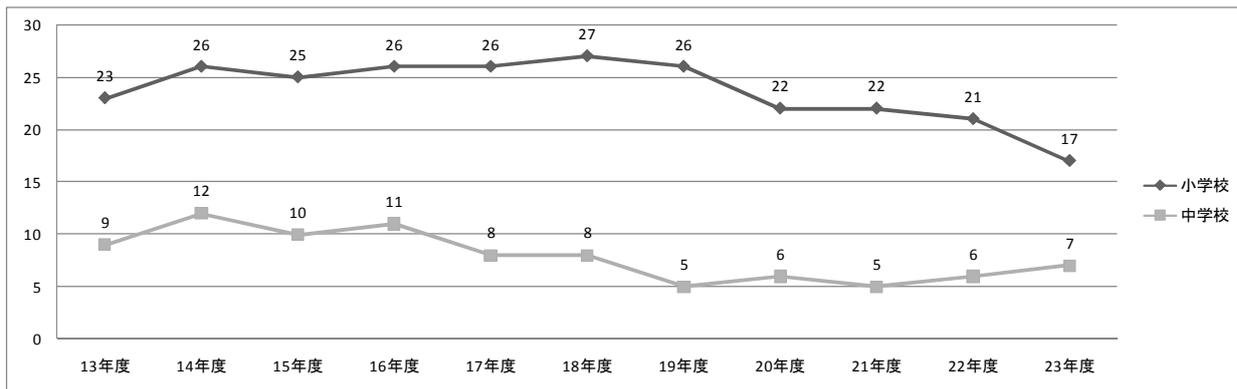


(2) 特別支援学級

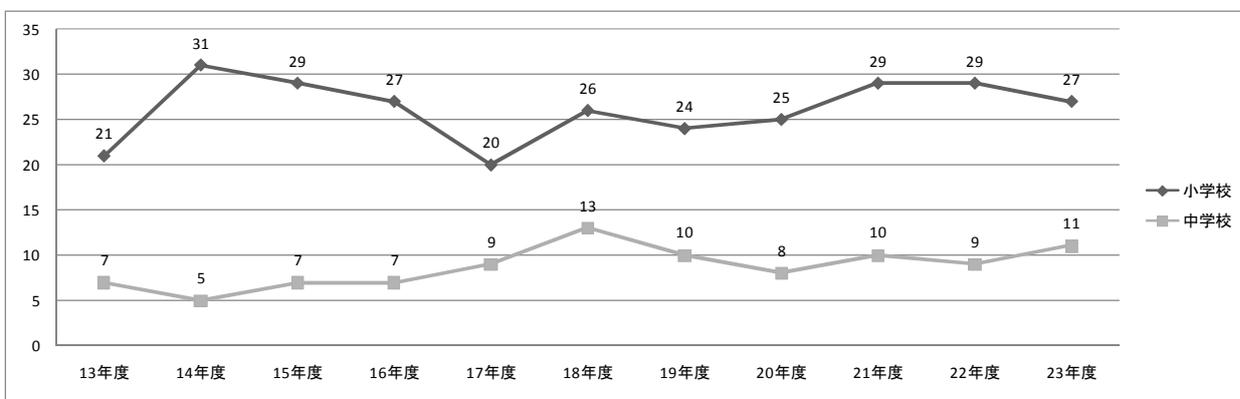
① 視覚障害



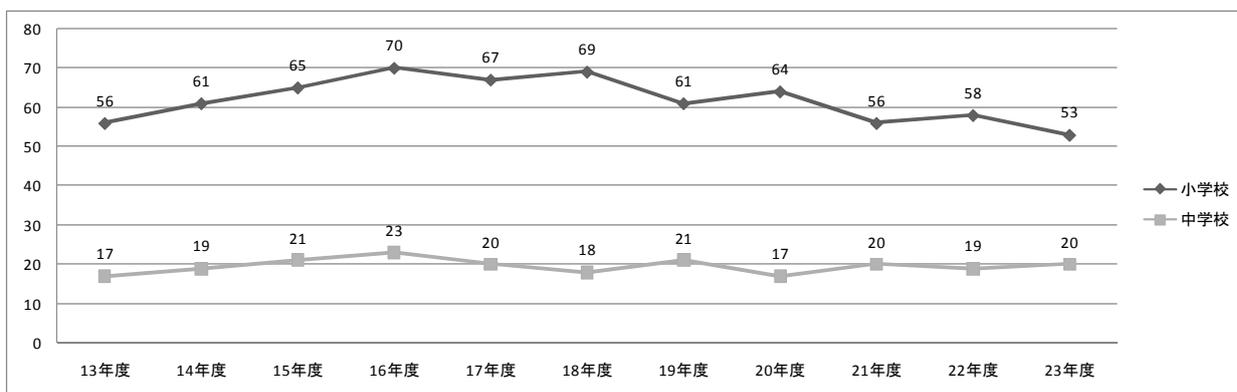
## ② 聴覚障害



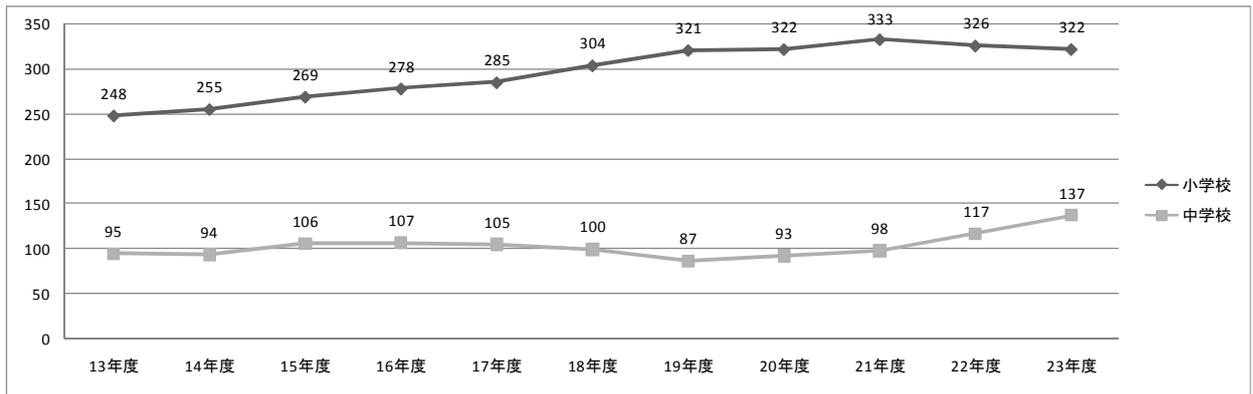
## ③ 病弱・身体虚弱



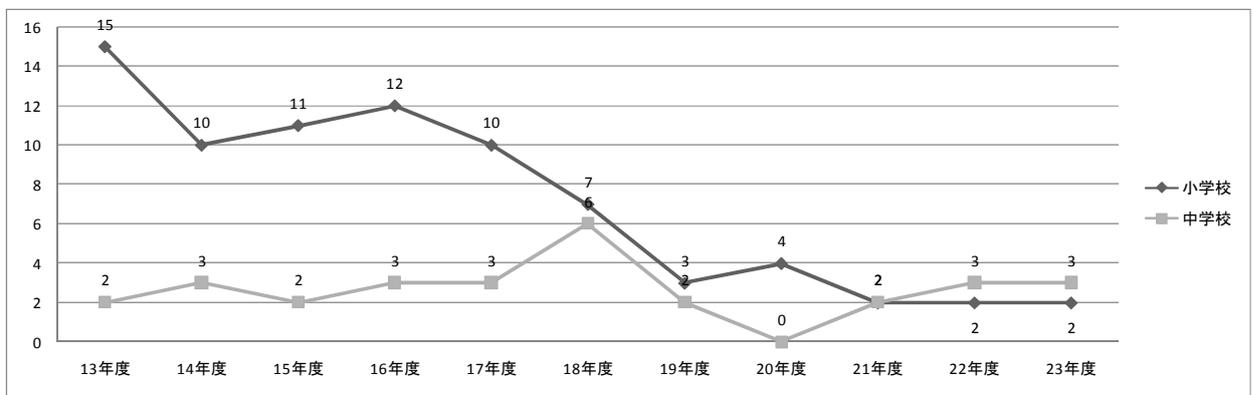
## ④ 肢体不自由



⑤ 知的障害



⑥ 言語障害



⑦ 自閉症・情緒障害

